



## スペイン都市の拡大過程とPaseo

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-12-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山崎, 俊郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24729/00006398">https://doi.org/10.24729/00006398</a>

# スペイン都市の拡大過程と Paseo

山崎俊郎

## 一、都市における Paseo の機能

Paseo は散歩道を意味し、広くスペインの都市にみられる道路である。この場合の都市とは、筆者の巡検した集落（都市・村落）のうち、県庁所在地に限定する。

ヨーロッパの中で、ソ連を除けばフランスに次ぐ国土（五〇四、七五〇平方キロメートル）は、十四の地方 Region に分かれ、五十県を構成する。即ち Andalucía (Almería, Cádiz, Córdoba, Granada, Huelva, Jaén, Málaga, Sevilla)° Aragón (Huesca, Teruel, Zaragoza)° Asturias (Oviedo)° Castilla la Nueva (Ciudad Real, Cuenca, Guadalaajara, Madrid, Toledo)° Castilla la Vieja (Avila, Burgos, Logroño, Palencia, Santander, Segovia, Soria, Valladolid)° Cataluña (Barcelona, Gerona, Lérida, Tarragona)° Extremadura (Badajoz, Cáceres)° Galicia (La Coruna, Lugo, Orense, Pontevedra)° León (León, Salamanca, Zamora)° Murcia (Albacete, Murcia)° Valencia (Alicante, Castellón, Valencia)° Vascongadas y Navarra (Alava, Guipúzcoa, Navarra, Vizcaya)° Baleares (Baleares)° Canarias (Las Palmas, Santa Cruz de

Tenerife) である。このうち、県名と県庁所在地名が異なるのは、いわゆるバスク・ナバラ地方の Alava 県、Vitoria, Guipúzcoa 県の San Sebastián, Navarra 県の Pamplona, Vizcaya 県の Bilbao と地中海の著名な保養地 Baleares 県の Palma de Mallorca 及び他は同名の都市が県都となっている。<sup>(1)</sup>

わが国の四七都道府県庁所在地の人口規模をみると、<sup>(2)</sup> 一〇〇万人以上（東京都区部を含む）八、五〇万人——百万人未満六、三〇万人——五〇万人未満十四、一〇万人——三〇万人未満十九、計四七都市である。これに比べ、第一表でみるように、一〇万人以上の県都二七のスペインは、概ね過度な人口の都市集中を示していない。群を抜く巨大都市の首都マドリードも、市域は広大な疎林に取り囲まれ、拡大の余地を残している現状はうらやましいばかりである。まして、数万から十数万の人口規模が多い地方の県都は、何世紀も変わらないと思われる歴史的核を保全し、訪れる人々を引き付けてやまない魅力をたたえている。工業化への努力に劣らない配慮が、歴史的都市景観の修復になされている現況には深い執念すら感じるほどである。<sup>(3)</sup>

この国の市民が、ヨーロッパの中でも特に散歩好きというわけではなく、しかし一般に「おしゃべり好きで友人との会話を楽しみ、男女

第1表 都市の人口推移

都 市	1857	1887	1920	1950	1970
Madrid	281,170	477,283	750,896	1,618,435	3,146,071
Barcelona	178,625	272,481	710,335	1,280,179	1,745,142
Sevilla	112,139	143,182	205,529	376,627	548,072
Valencia	106,435	170,763	251,258	509,075	653,690
Málaga	92,611	134,016	150,584	276,222	374,452
Cádiz	63,513	62,531	76,718	100,249	135,743
Granada	63,113	73,006	103,368	154,378	190,429
Zaragoza	58,978	92,407	141,350	264,256	479,845
Palma de Mallorca	42,910	60,514	77,418	136,814	234,098
Valladolid	41,913	62,012	76,791	124,212	236,341
Córdoba	36,501	55,614	73,710	165,403	235,632
Las Palmas	—	—	—	153,262	287,038
La Coruña	27,354	37,215	62,022	133,844	189,654
Murcia	26,888	98,538	141,175	218,375	243,759
Santander	24,702	42,125	72,469	102,462	149,704
Burgos	24,327	31,301	32,301	74,063	119,915
Almería	23,018	36,200	50,194	76,497	114,510
Pamplona	22,702	26,663	32,635	72,394	147,168
Badajoz	22,195	27,279	37,967	79,291	101,710
Alicante	20,342	40,115	63,908	104,222	184,716
Jaén	19,738	25,706	33,444	61,610	78,156
Lérida	19,581	21,885	38,165	52,849	90,884
Castellón	19,297	25,193	34,457	53,331	93,968
Tarragona	18,023	27,225	27,883	38,841	78,238
Bilbao	17,649	50,772	112,819	229,334	410,490
Toledo	15,797	20,837	25,251	40,243	44,382
Vitoria	15,569	27,660	34,967	52,206	136,873
Salamanca	15,203	22,199	32,414	80,239	125,220
Cáceres	14,795	14,880	23,563	45,249	56,064
Oviedo	14,156	42,716	69,375	106,002	154,117
Gerona	13,959	15,497	17,691	28,915	50,338
Zamora	12,881	15,292	17,567	38,320	49,029
Palencia	12,811	15,028	19,543	41,769	58,370
Albacete	11,860	20,794	31,960	71,822	93,233
Santa Cruz de Tenerife	10,834	19,772	52,432	103,446	151,361
Logroño	10,446	15,567	26,806	51,975	84,456
Segovia	10,339	14,369	16,013	29,568	41,880
Huesca	9,874	13,041	13,921	21,332	33,185
León	9,603	13,446	21,399	59,549	105,235
San Sebastián	9,484	29,047	61,774	113,776	165,829
Ciudad Real	8,951	14,702	18,991	34,244	41,708
Teruel	8,830	9,243	12,010	18,745	21,638
Huelva	8,423	18,195	34,437	63,468	96,689
Lugo	8,246	19,952	28,346	53,743	63,830
Ourense	7,284	9,747	12,816	24,836	34,485
Quence	6,872	14,168	18,581	55,574	73,379
Pontevedra	6,623	19,996	26,994	43,221	52,452
Guadalajara	6,533	11,235	13,536	19,131	31,917
Avila	6,419	10,935	13,704	22,577	30,983
Soria	5,191	7,784	7,619	16,878	25,030

Emilio Arija Rivarés : Geografía de España, 1975 により筆者補訂

を問わずカフェテリア、セルベセリア、バルなどで寛いだ一時を過ごす国民性は、必ずしも勤め先から住居に直行というマイホーム型をよしとしない。開発計画にも、居住区の近隣に規模に応じた Centro cívico として大小の Comercio 設置が不可欠なのである。<sup>(5)</sup>

各都市にみる Paseo も、終日、漫ろ歩きの人影が絶えない。元來、Paseo は、用件を持たずに、ぶらぶらと歩いたり、車や自転車や馬に乗ったり、或はボート遊びを楽しむ意味に使われる。<sup>(6)</sup>都市の建築構造が、わが国などと異なり、一般には四、五階建のアパート Casa de Vecindad (Apartamiento) 形式の集合住宅で、小さいながらも庭つき一戸建などは考えられない。むしろ、保安のためには、何度かのカギの関門を通らなければ、自分の部屋にたどりつけない居住形態を当然のこととして育ってきたわけである。彼らが、近隣との円滑な社会生活を維持するために、好んで大小のプラサに集まり、あるいは一杯のコーヒー、セルベッサ、ビールなどで長時間の立ち話を楽しむ日常生活は充分に理解しうるのである。

長い昼休みが済んで、夕刻になると街は再び活気づく。商店もまた扉を開け、午前のにぎわいに倍する人の群れが通りを行き交う。ことに、日差しの強い季節には全く街が生き返る時間である。Calle 通りも、Avenida 大通りも、それが盛り場に近づくほど人影は多くなる。

Paseo が本来の面目を取り戻すのもこのときである。単に Calle、Avenida と名付けられた街路に比べ、植え込みや並木の整備が行き届いた状況が一般的であって、若い恋人達の散策にも風情が伴う。<sup>(7)</sup>保養・観光地の、特に海岸沿いの Paseo では、昼間の老夫婦に替わって多く見受けられるのは新婚であらうか。Calle から分かれた Caminito 小道にも、趣のある街灯が点って、この国らしいたたずまいの中に、

いささかの旅愁を覚えるのもこんなときである。

## 二、都市の平面形態にみる Paseo

### a、人口規模と市域拡大の現況

再び第一表によつて、都市人口の推移と市域拡大の現況を概観したい。一九八〇年版のイスパニア統計年鑑も人口統計は第一表の一九七〇年の項と同様である。<sup>(8)</sup>五〇県都のうち百万以上は二市、五〇一〇〇万未満二市、三〇一五〇万未満三市、一〇一三〇万未満二〇市、五〇一〇万未満一三市、五万未満一〇市であり、他の欧米諸国や、わが国と比べても、人口の都市集中が過度に進んでいると言ひ難い。日本の場合、前項でも触れたように一〇万以下の県都は皆無で、全国六四七の市のうち百万都市一〇を含め一〇万以上は一九三市を数える現状である。<sup>(9)</sup>

また、その推移をみても、一八五七年は安政四年、一八八七年は明治二〇年、一九二〇年は大正九年となり、首都マドリードと地中海岸のバルセロナを除いては急激な変化は見られない。ただ、わずかに十萬都市の増加があり、観光地としてのグラナダや、地方中心城市としてのサラゴサ、ムルシアなどのほか、カンタブリコ海に面したバスコ地方の工業都市ビルバオにその例がみられる。マドリードが百万都市となるのは一九三五年(昭和一〇)なのである。<sup>(10)</sup>

近世初頭、レコンキスタを完了したイスパニア王国が華々しく世界史の舞台に登場したのも長い期間ではなかった。十六世紀末に無敵艦隊が新興のイギリスに敗れてからは次第に国運は衰退し、広大な新大陸の植民地も十九世紀の前半には、ほとんど独立してしまつた。スペ

インがその後の永い政治的・経済的停滞から、急速な起ち上がりを示すのは、不幸な内戦に引き続いて全ヨーロッパを巻き込んだ第二次世界大戦が終つてからである。一九五〇年、一九七〇年にみる都市の人口推移によつても、その状況が首肯されよう。

一般にヨーロッパ諸国では、都市と村落を含め集落の歴史的景観は大切に保全される傾向が強い。近年わが国にも漸次法制が整備され、条例が設けられて、景観保全に対する意識の高まりがみられるのは喜ばしいことである。<sup>(11)</sup>

工業化に熱心で、EC加盟も近いと思われるスペインが、世界屈指の観光黒字国であることは周知の事実である。<sup>(12)</sup>長期滞在者の多い保養地には、現代的なホテルが建ち並ぶが、その地域の歴史的建造物は大切に保全されている。グラナダ、コルドバ、セビリアを結ぶいわゆる Triángulo Bético<sup>(13)</sup>は代表的に知られるが、他の諸都市と同様である。国外からの訪問者は、永い年月を経た、この国らしい特色のある集落景観を愛でるのである。

ところで、都市化の進ちよくが遅かったとはいへ、工業化の進展に伴つて都市域の拡大も顕著である。特に首都マドリードの膨張は急速で都市計画に対する熱意には見るべきものがあり、参考となる点も多い。<sup>(14)</sup>歴史遺産の継承に意を尽しながら、明日への向上に努力する姿は好ましいものである。その場合、先にも触れたように、今日いち日を精一杯に楽しんで二日分にも生きようとする人達が、大切に整備し活用している Paseo を例にとつて市域拡大との関連を考えてみたい。

もとより、複雑な多機能を有する現代都市の考察には、多くの要素が指標たるべきことはもち論であるが、平面形態からみて、地割り(道路網)の上で比較的に眼につき易い Paseo を選んでみた。その位置、

主たる機能から若干の分類を試みたものである。

## b、Paseoの分類

本来なれば、取りあげる全都市の平面図を示すべきであるが、ここでは各分類について一―二の例示に留めた。第二表は人口規模別に分類したものである。

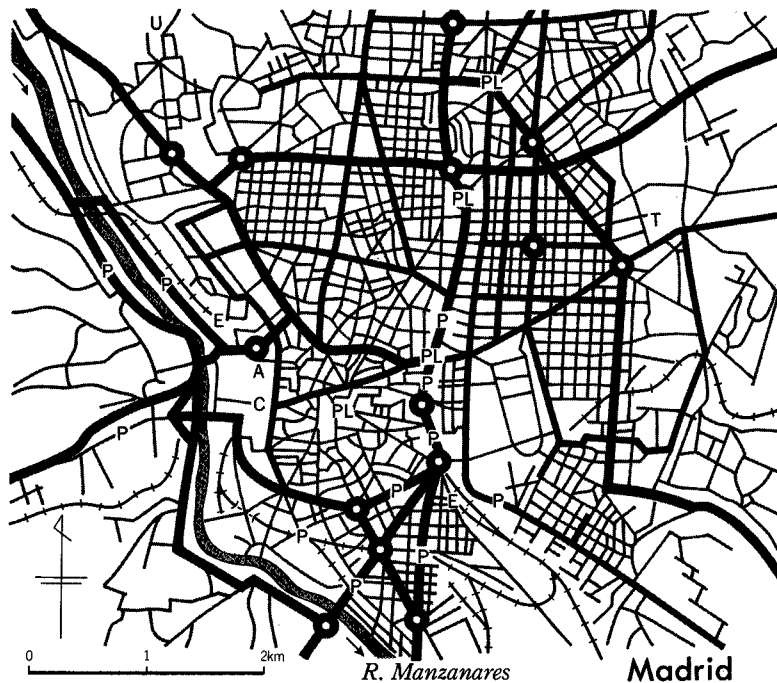
### ① 都市の旧外縁を示すもの(A)

都市域の拡大過程を明りように示すものであり、かつての市域外縁がパセオとなっている。マドリードの場合、カステイリヤ王、アルフォンソ六世がマンサナーレス川の谷に臨むイスラム教徒の城塞(現王宮の場所)を奪回したのは一一世紀末である。その後、一四七九年のカステイリヤ・アラゴン両王国の合併、一四九二年のレコンキスタの完了により強大なイスパニア王国に成長し、一五五六年に即位したフェリペ二世がこの地を首都と定めた。その後の市域拡大については既に報告したが、<sup>(15)</sup>一七・一八・一九世紀の半ばまで、ほとんど拡大はみられない。第一表の一八五七年における約三〇万人の市域がそれである。現市域は一八の区 Distrito に分かれ、区はまたいくつかの小区(町内) Barrio に分割される。約三〇万人を擁した旧市域は第一区 Centro にあたり、歴史的建造物も集中して国外からの観光客はもとより、昼夜を分かたずにぎやかな市民の姿が見られる地域である。第一図でみると、中央やや左下の環状道路に囲まれた部分がそれで、左上(西北)に王宮(A)がありマンサナーレスの谷を見下ろす要害の地である。部分の中央にはプラサ・マヨールがあつて、今なおマドリードの中央広場としての機能を果たしている。その右(東)にパセ

第2表 Paseo の分類

人口規模 (万人)	(A) 都市の旧外縁	(B) 主要道	(C) 海岸・河岸・丘上 の散歩道(観光地)	(D) 市民の日常的な散歩道
5 未満	Ciudad Real, Huesca,	Toledo, Guadalajara,	Avila, Segovia,	Soria, Cuenca, Teruel, Zamora,
5~10 "		Jaén,		Logroño, Huelva, Lérida, Palencia, Orense, Albacete, Lugo, Cáceres, Gerona, Pontevedra, Tarragona, Castellón,
10~15 "	Salamanca, Almería,		Santander, Burgos,	León, Cádiz, Vitoria, Pamplona, Badajoz,
15~20 "			Alicante, San Sebastián,	Oviedo, Santa Cruz de Tenerife, Granada, La Coruña,
20~30 "	Córdoba,	Valladolid,	Palma de Mallorca,	Las Palmas, Murcia,
30~50 "	Zaragoza,		Málaga, Bilbao,	
50~100 "			Valencia, Sevilla,	
100 以上	Madrid,		Barcelona,	

第1図 Madrid (A)



オとプラサが交互になって市街地をほぼ南北に貫く道路が市域を代表する幹線である。このパセオが永らく東のアーバン・フリレンジであったところで、その右側(東)の空白に近い部分は、かつての離宮、現

P. Paseo PL. Plaza C. Catedral E. Estación  
T. Plaza de Toros U. Universidad A. Alcázar

第2図 Salamanca (A)



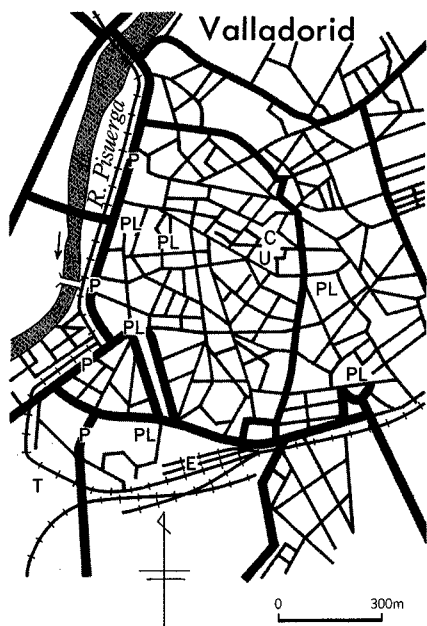
P. Paseo PL. Plaza C. Catedral  
 E. Estación T. Plaza de Toros  
 U. Universidad A. Alcázar

在のレティイロ公園である。図の中央下(南)からパセオをたどるとアトーチヤ駅(E) Estación de Atocha までが、パセオ・デリシアス Paseo Delicias まで、図のほぼ中央部のシムレス広場(PL) Plaza de la Cibales に至る間は Paseo del Prado である。次に Paseo de Calvo Sotero まで Paseo de la Castellana に続き、図の上方(PL) Plaza República Argentina の左方十字路に至る。それより北はペンタ Avenida del Generalísimo Franco まで、北の玄関口であるチャマルティン駅 Estación de Chamartin に向かう。スペイン都市の中で最も良く整備された市内幹線路となっている。第二図は同じく旧市街の外縁を示すサフランカ Salamanca である。人口二・五万人、トルメス川 Río Tormes の右岸にあって、スペイン全土の中で最も美しいマヨール広場(図のほぼ中央)と、一三世

紀に設立されたヨーロッパ最古の一つであるサフランカ大学がある。<sup>(17)</sup>一九世紀半ばの絵図にすると、一一の門 Puerta をもった圃 Cercas を巡らしている。圃の外周のすべてに固有の名称は付けられてはおらず、北の一部に Paseo de las Carnalitas とあるのみである。圃の外は、すべて田園地域となるが、市域に至る道路の中で東北部に Calzada de Toro, Calzada de Medina 及び Carretera de Ledesina, Carretera de Zamora があり、Puerta de Toro, Puerta de Zamora 及び Calzada は現在 Avenida Federico Anaya 及び Avenida General Mola であり、Carretera は Avenida de Italia, Paseo Torres Villarreal となっている。いずれも市域外と結ぶ重要な交通路である。また、Cerca はほとんど取り払われて、かつて Cerca をとり巻いていた市域の外周道路も北の一部のほかに Paseo となっている。東は Paseo de Canalejas, 南のトルメス川沿いに Paseo Rector Esperabe, 西は Paseo de San Vicente 及び Avenida de Mirat, Avenida de Alemania である。また、ペンタ・デ・アトーチヤは幅広い植込みも整って本来のパセオの機能をもよく果たしている。

また、同絵図で市域西南部にみられた廃きよ Ruina と屋敷 Solar が市街化し、西北部にあった闘牛場 Plaza de Toros が北方の新市街地に移転したほかは、歴史的景観も良く保存され中世の街さながらである。とくに、大学とカテドラルのある付近にはその感が強く、重厚な誇りに満ちた雰囲気を漂わせている。第二図中、川に架かる二つの橋で下流のは Puente Romano であり、橋を含めて見上げる小丘上の集落景観は素晴らしい。新市街は旧市の東北方、駅(E) 付近から北部一帯に広がるが、川を隔てた南部にも新しい街づくりが進められ

第3図 Valladorid (B)



P. Paseo PL. Plaza C. Catedral  
 E. Estación T. Plaza de Toros  
 U. Universidad A. Alcázar

ている<sup>(19)</sup>  
 コルドバも旧市街の西の外縁が美しいパセオに造られている例であり<sup>(20)</sup> アルメリアについては、近く稿を改めて述べるつもりである。

② 主要道となっているもの (B)

ここで言う主要道とは、市域の内部におけるメインストリートの性格よりも、外部との交通上の機能が卓越している場合をとりあげた。

第三図はバリャドリッド Valladolid である。Valladorid は人口二四万人。マドリッドの西北約一七〇キロメートル、ポルトガルに流入する Río Duero の支流 Río Pisuerga の左岸に位置する。バリャドリッド県は小麦・大麦・てんさい・牛・羊・豚などの農牧業のほか、近年は乗用車・オートバイ・トラック等の生産も増加して工業的機能

が大きくなった<sup>(21)</sup>。全国二三大学の置かれている一八都市の一つである。第三図のカテドラル、ウニベルシダードから西方のプラサ・マヨール付近までが、古い都市核にあたるが、マヨール広場もサラマンカで代表されるように、華麗な建物に取り囲まれた広場に人々が集う場所としての機能よりは、車の乗り入れの激しいターミナルとなっている。周囲の歩道には、カフェテリア・セルベセリアなどのテーブルがはみ出して、終日にぎわいをみせるのは他と同様であるが、近県のセゴビア、アビラ、サラマンカ等と比較して、人の動きの活発さを感じさせる街である。

したがって、パセオと名付けられた街路も機能的には他都市との交通が優先していると考えられる。図の左上方(西北) 鉄道線路に平行した Paseo de Isabel la Católica や、その南の Paseo de San Lorenzo、左方の屈折した Paseo de Zorilla, Paseo de Filipinos, 左下方(南)に向う Paseo de España などがそれで、左上方の橋を渡ってレオンと結ぶ N-601。左下方(南)はマドリッドと結ぶ N-403 号線で、国道とヨーロッパ国際道路を兼ねている。ちなみに、駅(E) 右方の南に向う道路は、セゴビアに向う N-601, 右下方はソリア行 N-122, ビスエルガ川右岸に平行するのは、N-620 でサラマンカ、ブルゴスと結び、いずれも国道・国際道路となっている。

トレドが、この分類に入るのは、マドリッドと結ぶ幹線の N-401 が Paseo de Madrid と名付けられており、著名な橋の一つである Puente de Alcántara を渡ってシウダード・レアルに向う N-401 も Paseo de la Rosa とつけられているためである。タホ川に架かる Puente de San Martín を旧市内に入った地点から城壁にそって Paseo la Ronda Nueva, Paseo de Recaredo と続き、前述の プレリド・ビ至る



N-401に合流するパセオや、城外に Paseo de los Canónigos, Paseo del Cristo de la Vega もあるが、N-401ほどの機能はもたない。また、旧市内の各道路は屈曲した Calle で、外来の人々は、歴史的建造物の連なるこの中世的な街並みを散策するのである。<sup>(22)</sup>

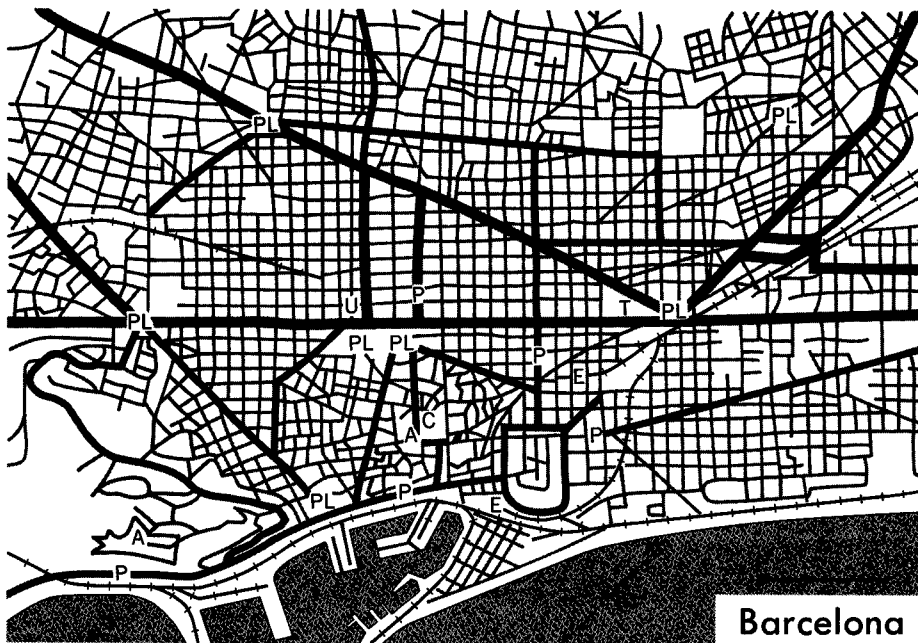
③ 海岸・河岸・丘上の散歩道 (C)

とくに外国からの保養・観光客が多い諸都市にその例をみる。

バルセロナはマドリッドと共にスペインを代表する百万都市であり、自治権拡大運動の強いカタルーニャ Cataluña 地方の中心都市である。年間三九〇〇万人にも達する入国者は、その四五パーセントが陸路フランスからで、また、その四〇パーセントにあたる七〇〇万人が地中海岸の La Junquera, Port Bou から入る。その他、海路・空路を合わせ、バルセロナは主要観光地の一つである。<sup>(23)</sup>

第四図はバルセロナを示す。中央やや左下のカテドラル(C)、王宮 (A) の地域がゴシック地区 El Barrio Gótico でローマ時代の市壁 Muralla Romana をはじめ歴史的建造物が集中し、市域発展の核となったところである。<sup>(24)</sup> その左、二つのプラサ間を斜めに通る街路がランプラス通り Las Ramblas で、両側の建物際の歩道の他に、左右車線に挟まれた幅広い歩道があつて、常設・仮設の店舗も並び最も人出の多い通りである。一四世紀までの西の外縁はこれにあたる。さらに、一八世紀には西の多角形に似た街路まで市域は拡がり城壁を巡らしていた。(C)・(A) から右寄りの環状道路は一八世紀までの砲台あとで公園になつている。<sup>(25)</sup> パセオは、ランプラス通りを北に突き当たった Plaza de Cataluña から上方(西北)に伸びる Paseo de Gracia、それと平行した図中央右寄りの Paseo de San Juan 等が

第4図 Barcelona (C)



P. Paseo PL. Plaza C. Catedral E. Estación  
T. Plaza de Toros U. Universidad A. Alcázar

あるが、海岸沿いの Paseo de Colón が当市の特色をよく表わしている。

ランプラス通りの南端は Plaza puerta de la Paz で、新大陸の方向を指すコロンプス記念柱 Monumento de Colón があり、両側に Paseo de Colón が続いている。この広場付近には一四世紀に出来た王立造船所の海洋博物館や、岸壁に係留されているサンタ・マリア号の実物大模型もあって港の歴史を物語る。港内を横断する空中ケーブルから眺めた、並木の続くランプラス通りを含む旧市街の全景は誠に素晴らしい。

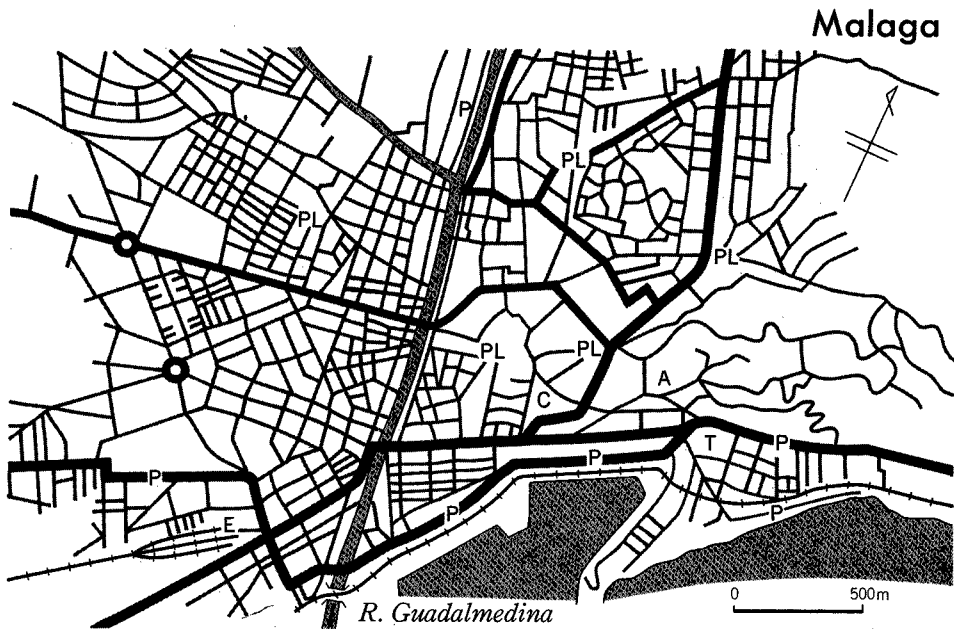
第五図はコスタ・デル・ソル Costa del Sol に臨む保養・観光地の中心マラガ Málaga である。年間を通じて、空路による入国者は、マドリードと同じ一〇万人余でスペイン本土内では最も多い。<sup>26)</sup> 港を見下ろす丘上に Alcazaba と Castillo de Gibralfaro が連なり、ふもとはカテドラル・パルメオ Palacio de la Aduana 市役所 Ayuntamiento 等が古く核を構成する。グアダルメディナ川から左(西)は新市街地で、図の上方、川岸のパセオは公園を伴った Paseo de Martiricos である。ことに港に近き Paseo del Parque, Paseo de Cintura del Puerto はよく整備され、散策を楽しむ人影が絶えない。

バルセロナ、マラガと同じように、海岸べりのパセオで見事な都市は、同じく地中海沿岸コスタ・ブランカ Costa Blanca のアリカンテ Alicante、バリアレス諸島のパルマ・デ・マジョルカ Palma de Mallorca ビスケー湾にのぞむコスタ・バスカ Costa Vasca のサンタンテール Santander、フランス国境に近いサンセバスチアン San Sebastián などがある。

また、河岸ぞいのパセオでは、アンダルシア地方のセビリア<sup>(28)</sup> 地中海沿岸コスタ・デル・アサール Costa del Azahar のバレンシア<sup>(29)</sup> Valencia、コスタ・バスカのビルバオ Bilbao、カスティリーヤ・ラ・

ビエハ Castilla la Vieja 地方のブルゴス Burgos がある。

第5図 Malaga (C)



P. Paseo PL. Plaza C. Catedral E. Estación  
T. Plaza de Toros U. Universidad A. Alcázar

地形的に丘上に分類しうるのは、囲郭都市で知られる「ムン Avila」<sup>(32)</sup>と同じく美しい城で名高いセゴビア Segovia がある。

④ 市民の日常的な散歩道 (D)

ここでみる各都市は、グラナダ、ラスバルマスを除いては、前項(C)でみた都市に比べ国外からの観光客は少なくなる。人口規模も小さく、急激な市域拡大もみられない。パセオも歴史的核に近く、市民が日常に利用する。いわば、本来のパセオの機能を最も有効に果たしている諸例といえよう。

第六図はアリカンテに近い内陸のムルシア Murcia である。アルバセーテ県とムルシア県で構成されるムルシア地方は第一次産業比率の高い地方であるが、Rio Segura 沿いの本市はその中心都市で、スペイン全土でも十指に入る人口規模と着実な増加を示している。(第一表参照)とうもろこし、米、トマト、綿花、ぶどう酒などのほか、牛・羊・豚や、セメント、鉛、亜鉛、乗用車、オートバイ、トラクター等の生産・集散がある。<sup>(31)</sup>

セグラ川に近いカテドラルとプラサ Plaza Martinez Torne! 付近を古い核として、次第に北へ拡大した。図中央北寄りのプラサ Plaza de Ronea はロマア劇場前の広場で、市域拡大にともなうもの。これはプラサ・デ・トロス (T) についても同様で、土地取得の容易な市域外縁部に建設されているのは、多くの都市で見うけられる現象である。図中、最も北のプラサ Plaza del Generalissimo は新しい都市プランによる将来の交通結節点を示し、付近にはテニス、サッカーなどの競技場も設けられている。<sup>(32)</sup>パセオは川の上流から Paseo del Malecon, Paseo de Garay と続き、手入れの良い公園と並行して利用者が多

第6図 Murcia (D)



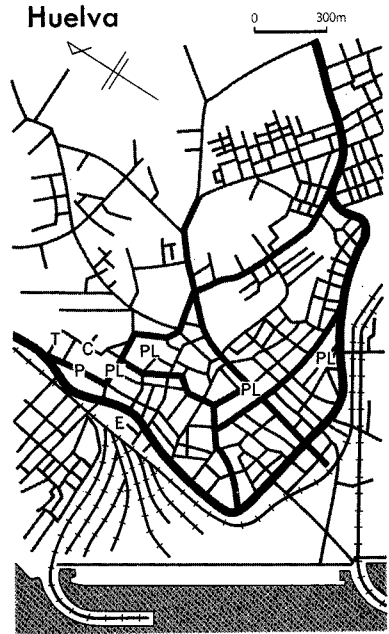
P. Paseo PL. Plaza C. Catedral  
E. Estación T. Plaza de Toros  
U. Universidad A. Alcázar

い。休日の人出はかなりのもので、子供連れや散歩を楽しむ老人の姿も多かった。

第七図はウエルバである。アンダルシア地方の西端にあつてポルトガルと国境を接し、著名な観光地から見ると、いかにもひなびた感じはするが、それだけに素朴で心優しい港町である。ウエルバ県も、とうもろこし・そらまめ・ポテト・てんさい・牛・羊・豚などの生産が多い農牧地域であるが、一人当りの県民所得は、アンダルシア地方の八県のうちアルメリア、コルドバ、グラナダ、ハエン各県よりも高<sup>(34)</sup>い。ウエルバは全県人口約四〇万人の約二五パーセントを集める県都である。

第七図の中央左よりに、カテドラル、プラサ、パセオ記号の集る地

第7図 Huelva (D)



P. Paseo PL. Plaza C. Catedral  
E. Estación T. Plaza de Toros  
U. Universidad A. Alcázar

域が古い核と考えられる。カテドラルの前に Plaza de la Merced、その東に Plaza San Pedro があり、パセオは Paseo de la Independencia である。このパセオは緑地を伴っていないが、古い都市核の一部であるだけに、人の集まりも多く利用度も高い。市民生活の日常によく溶けこんでいるといえよう。図の中央右よりに Plaza de las Monjas, Plaza Nina があるが、核より遠ざかるにつれて、より新しいと理解される。

港は漁港としての機能が強いと観察したが、多くの引込線が駅(E)に集まる。列車らしい編成はウエルバまでで、ここから国境の町アヤモンテ Ayamonte には、軽便鉄道のようなディーゼルカーが走る。一輛で、しかも台車がひとつの車体は、上下左右に振れながら、可成りのスピードで突っ走るが、素朴で飾らない人達に囲まれてイベリア

の辺境を旅する心楽しさは、また格別なものである。

ガリシア地方のラコルーニャにおける Paseo de Ronda<sup>(35)</sup> レオン地方・レオンの Paseo de Papalagunda<sup>(36)</sup> アストリア地方・オビエドの Paseo del Bombe<sup>(37)</sup> バスノ・ナバラ地方、アラバ県、ゴトリアの Paseo la Zumaguera<sup>(38)</sup> ナバラ県、パンプローナの Paseo de Sarasate<sup>(39)</sup> など、いずれも、それぞれの歴史を背負った落着いた市民生活と密着して、よく Paseo の効果を挙げていると考えられるものである。

### 三、都市プランと Paseo の将来展望

最新の統計による職業別人口構成比率では、いわゆる第一次産業に二五・九パーセント、第二次産業に三六・八パーセント、第三次産業に三六・九パーセントとなる。これを一九五〇年の第一次(五〇・四)、第二次(二三・四)、第三次(二四・四)と比較すると、就業人口比率ではヨーロッパの先進工業国のタイプに近付きつつあるといえよう。<sup>(40)</sup> 永い政治的閉鎖性から脱して、経済的進展のうに、ECへの仲間入りを願うことの強いスペインは、今後も西欧先進諸国に近づく努力を怠らないであろう。現在の世界的不況からの回復が実現した時点で、恐らくは、そう遠くない将来にEC加盟が成立すると予想される。

世界のどの工業先進国と比べても、決して引けをとらない都市再開発が意欲的に実行されつつある現状である。<sup>(42)</sup> 歴史的建造物の集中した地域の景観保全に、十分な配慮を示しながら、よりよい明日への生活環境づくりを目指す熱意は極めて高い。その場合、どの都市も例外なく、都市を取り巻く環境が、わが国などとは比較にならない余裕を持っていることである。日本の一・五倍近い国土に約三分の一の人口は、一平方キロの密度が七四人となつて、充分なゆとりを残している。<sup>(43)</sup>

三五〇万人のマドリッドが六〇七平方キロの市域であり、その中に、なお、いくらでも拡張可能なバラハス国際空港を持っている実情である。全市一八の区 *Distrito* は第一区のセントロ Centro (旧市街) を中心に渦状の配列をするが、<sup>(44)</sup> 新市街地を含めて、市人口のほとんどは、概ね地下鉄路線と公営バス網の範囲にカバーされている。一〇〇分の通勤時間が常識のわが国の実態など到底理解してもらえない。窓外にみえる赤茶けた大地と疎林の景観が尽きると、突如として首都に到着する。マドリッドの北の玄関チャマルティン駅も、南からの出入口アトーチヤ駅も、西のノルテ駅もすべて同様である。マドリッドは、まだこうした範囲内で新市街地の建設も可能なのである。

北のチャマルティン駅に近い地下鉄の終点プラサ・デ・カステイリヤ駅から、バスで一〇分ほどの新市街バリオ・デルピラー *Barrio del Pilar* も、都市計画による高層集合住宅の一つに過ぎないが、生活環境の整備には多くの配慮がなされている。地区毎のプラサ、日常生活にこと欠かない商店の配置と至るところに見受けられる例のバル、カフェテリアなど。決して単なる高層の住居群ではない。また、*Paseo de la Castellana* は、いずれも十分にパセオの機能を果している。そうして、この地域が第八区フエンカラル *Fuencarral* のうちで最も都心に近い第八三小区 (町内) *Barrio de Peñagrande* にあたり、これから北部一帯に、<sup>(45)</sup> 全市域の四〇パーセントに近い広漠とした第八区が展開する。

このことは、市域南部の一例にもみられる。アトーチヤ駅の南、これも地下鉄の終点レガスピ *Legazpi* 駅からバスで二〇分ほどのビリヤベルデ・アルト *Villaverde Alto* を訪ねてみる。ここは第一二区ビ

リヤベルデの最南端にあたり、小区では一二四小区のサンアンドレス *San Andres* に位置し、都心から南への距離が短いマドリッドでは地域の最も南である。詳細は未調査だが、古い郊村が都市化したものと観察した。集落の北東から南西に通ずるパセオ・デ・アルベルト・パラシオス *Paseo de Alberto Palacios* は集落を二分する形となるが、ある時期に至るまでの南側の旧村落の外縁にあたり、北に拡大した現集落でメインストリート化したと考える。新設のニュータウンでないだけに、高層の集合住宅でなく、郊村の都市化が直ぐにうかがえるような親しみ易い風情を留めている。都心の高価な賃貸マンションを避けて、こんなところに住むのも悪くないと思ったことも事実である。

バスとメトロで四〇分もあればソルに行けるのである。都心の第一区セントロ Centro を除いては、外来の観光客の姿もなく生の市民生活に接しうる。それにしても、山積する政治的・経済的な諸問題を抱えるこの国の人達が、これほど見事に生活を楽しむ術を体得していることに目を見張るのである。

マドリッドのパセオは、決して新しい都市プランによって造られたものではない。旧市街の東の外縁であった、ブラド美術館わきを南北に通ずるパセオも、市域拡大と並行して整備されたものであり、この国の持つ余裕が巧まずして残しえた結果といえよう。スペインよりは、余程進んだ工業国である日本にも、これほどの都市域内幹線道路が皆無である現実と比較すると、ゆとりの少ないわが国では何事によらず、むしろ夢のような百年の計が大切なのではないかと痛感する。

第二表でみた各都市のパセオも、(C)の著名な観光地では、なおのこと行き届いた手入れが継続されようし、(D)の日常的な市民生活とよく溶けあって利用度の高いパセオでは、人々の集うプラサと共

に、今後とも市民に愛される散歩道として継承されて行くにちがいない。前にも触れたように、十分な活力をもつ国柄であるから、今後はさらにスピードを早めて都市域の拡大が進められるであろう。しかし、そのような場合にも、たとえバセオの名が付けられなくとも、その機能を十分に併せ持つような利用価値の高い街路が自然に出来上がって行くと思われる。歴史的建造物の集中する古い都市景観を、再開発の名分のもとに破壊して道路を拡げることなど思いもよらない人達である。それはまた反面、新しく造られる自分たちの住む街に、毎日のように集まって会話を楽しむプラサや、のんびりと散策で時を過ごす美しいパセオや、ときに立ち寄って杯をあげるバルなどが整わない状況など考えられないわけだからである。

(付記)

昭和五十六年度・大阪府在外研究員として、地中海沿岸諸国に出張の機会を与えて下さったことに厚く御礼申し上げます。また、その際に現地で種々御指導を賜った京都大学名誉教授(現奈良大学教授)である藤岡兼二郎先生に深謝の意を表したい。

本稿は、昭和五十五年度・人文地理学会(於京大会館)で発表した内容に、昨年度の巡検で得た資料の若干を加えたものである。

なお、この小稿を、四十年に近い畏友である小林博教授(現大阪府立大学文学部長)の定年退官記念論文集に謹んで献呈する。

註

(1) Ministerio de economía y comercio instituto nacional de estadística : *España Anuario Estadístico 1980*, pp. 9~10.

- (2) 国勢社。『日本国勢図会・一九八二年版』。七三二七八頁。
- (3) 拙稿。「マドリードにおける Urbanismo A. Z. C. A. に ついて」。大阪府立大学紀要(人文・社会科学) 第二七巻、一九七九年。
- (4) 拙稿。「グアタルキビル川流域の都市誌」。社会科学論集、第一〇号、一九七九年。
- (5) 拙稿。「マドリードにおける都市域の拡大と開発計画」。『地表空間の組織』所収。古今書院。一九八一年。
- (6) Ediciones Larousse : *Diccionario Moderno Español-Ingles*. 1976. p. 682.
- Walk (a pie); drive, ride (en coche), ride (en bicicleta, a caballo), trip, row, sail (en barco).
- (7) Editorial Planeta, S. A. : *Gran Enciclopedia Larousse, tomo octavo*. p. 196.
- Paseo.....Acción y efecto de pasear o pasearse : Cuando comenzó el paseo comenzada a cerrar la noche (Cervantes).
- (8) 筆者が従来に用いた統計年鑑 *Presidencia del gobierno instituto nacional de estadística : España Anuario Estadístico 1977* も、昭和五十六年七月―八月の出張の際に入手した八〇年版(註1)も人口統計は同じである。前回の調査は一九七〇年で、その後の十年間はそれを使用している。最近の調査は一九八〇年に行なわれたから、八一年版以降は改訂されるはずである。各都市人口の公式統計で最新のものは、各市役所に直接問い合わせ以外に方法はないと考える。
- (9) 前掲註(2)。
- (10) Ayuntamiento de Madrid : *Resumen Estadístico año 1975*.
- (11) 拙稿。「近現代がつくった景観」。浅香勝輔・足利健亮・桑原公德・西田彦一と共著。『歴史がつくった景観』所収。古今書院。一九八二年。
- (12) 総理府。『観光白書』昭和五十六年版。四〇頁。

受入旅行者数では、①イタリア(四八七〇万人)。②スペイン(三八九〇万人)。③フランス(二八〇〇万人)。④オーストリア(二二八五万人)。⑤イギリス(二二四九万人)となり、旅行収支の黒字国は、①イタリア(六六・七億ドル)。②スペイン(五五・六億ドル)。③オーストリア(二六億ドル)。④フランス(一六・三億ドル)。⑤イギリス(一四・四億ドル)等である。日本は一一一万人の受入。収支は四二・五億ドルの赤字となる。出国は、三九〇万人(昭和五五年)であった。

- (13) 前掲註(4)。
- (14) 前掲註(3)。(5)。
- (15) 前掲註(3)。
- (16) Depósito Legal : S. 185-71. Gráficas Ortega, Salamanca, 1971. : *Salamanca en 1858*.
- (17) プウト Avila のような堅固な城壁ではなく、頑丈な塙を解したほうが適切な構造である。市内東側の囲いに沿った通りにも、Calle de la Cerca の名がみられる。
- (18) Calzada は石だたみ道の意味。Calzada Romana (スペイン各地に残されたローマ時代建設の公道)などに用いられる。Carretera は、車の通る街道を称し、共に主要街道であったことを示す。
- (19) Pergamino : *Plano ciudad y nomenclador de calles, Salamanca*. また、航空写真で市街地と周辺を解説した資料には、Excelentísimo Ayuntamiento de Salamanca—Junio de Meml xxvi がある。
- (20) 前掲註(4)。
- (21) 前掲註(1)のほかに、Editorial Ramón Sopena, S.A.: *Geografía de España Ilustrada Sopena, 1974*. Emilio Alija Rivarés : *Geografía de España, 1973*.
- (22) Instituto Provincial de Investigaciones y Estudios Toledanos *Plano de Toledo, 1967*.

- (23) 前掲註(1)七五三頁。
- (24) Carlos Soldevila : *Barcelona*. Ediciones destino, 1964.
- (25) Editorial Planeta, S. A. : *Gran Enciclopedia LAROUSSE, tomo segundo, Barcelona, 1977*.
- (26) 前掲註(1)七五三頁。
- (27) 拙稿。「バレーレス諸島の都市誌」堺女子短大紀要、昭和五七年十月。
- (28) 前掲註(4)。
- (29) 拙稿。「スペイン都市の Plaza, Paseo」。野外歴史地理学研究会々誌。第六五号、昭和五六年。
- (30) 拙稿。「囲郭都市プウト」。藤岡謙二郎編著『地域と読図』所収。ナカニシヤ出版、昭和五五年。
- (31) 前掲註(2)。
- (32) Jose Sanchez Martinez : *Plano de la Ciudad, Murcia*. Policia Municipal del Exemo, Ayuntamiento de Murcia, 1976.
- (33) 前掲註(2)。
- (34) Emilio Alija Rivarés : *Geografía de España, 1975, tomo II, pp. 156-157*.
- (35) Ministerio de la Vivienda, Ayuntamiento—Jefatura de Obras Públicas : *Guía y Plano de La Coruña, 1973*.
- (36) Excelentísimo Ayuntamiento de León : *Plano de la Ciudad León, 1971*.
- (37) Técnica Cartográfica : *Plano de Oviedo*.
- (38) Publicaciones del Ministerio de Información y Turismo : *Vitoria, 1976*.
- (39) Editado por el Ayuntamiento de Pamplona : *Plano—Guía de Pamplona, 1971*.
- (40) 前掲註(1)また、註(8)の理由で、一九八二年現在では、第二次・

第三次産業人口比率が、さらに大きく増加していると予測される。

(41) 総理府統計局編、『国際統計要覧・一九七六』。西欧諸国のうち、スペインと状況の近いイタリアを例にとると、一九七二年で、第一次(一八・

〇)、第二次(四二・四)、第三次(三七・一)となる。

(42) 前掲註(3)。

(43) 前掲註(2)。EC加盟十か国の人口密度は、フランス(九八)・西ドイツ(二四七)・イタリア(二八九)・ベルギー(三三二)・オランダ(三四四)・ルクセンブルグ(二四〇)・イギリス(二二九)・アイルランド(四八)・デンマーク(一一九)・ギリシャ(七二)である。日本は三〇七人。

(44) 前掲註(5)。

(45) 前掲註(3)および(5)に記載の地図参照。